

ダンサーの身体に現れる即興性に関する研究

藤村港平（筑波大学大学院）

#### 【研究背景・目的】

これまで舞踊における即興に関する研究では、即興の方法論や意義について多くの議論が成されてきたが、本研究では、そのような即興の実践分析ではなく、即興とは本来何を意味しているのかという問題に焦点を当てるものとする。

シーツ（1988, p. 181）は、「即興舞踊とは、あらかじめ振付けがなくて、ダンサーがその場で作りながら踊る舞踊である」と述べており、舞踊において即興とは、振付けが「準備されていない」ものと認識されてきた事が分かる。しかし、たとえ振付けが準備されている非即興的な舞踊であったとしても、決められた振付けをどのように遂行するのか、表現するのかということ、その都度ダンサーの身体に委ねられることとなる。また、ダンサーは、その時置かれている状況を即時的に捉え、瞬間に身を委ねることで決められた振付けの中に「新鮮さ」を見いだす喜びを知っていることも事実である。このように、舞踊においてダンサーの身体は、振付けの有無にかかわらず即興的な性質を帯びることがある。

そこで本研究では、振付けされた舞踊に対して「あらかじめ準備していない」ものを即興舞踊とする一般的な構図を離れ、振付けの有無や程度に関わらず、「舞踊する身体が常に抱える即興性」について考察を行う。

#### 【方法】

本研究は、文献による調査を基に論を展開していくものとする。はじめに舞踊を研究する上で現象学における理論の援用を行うことが、本研究を進める上でどのように有効であるかを検証し、舞踊分析に転用可能な現象学の方法論と既存の理論について考察する。

先行研究の対象としたのは、舞踊する身体に対して現象学的視点を捉えるために、メルロ＝ポンティの「知覚の現象学」を、舞踊の時間性と空間性を論じる上での記述の参考として、サルトルの「存在と無」、「身体の三つの存在次元論」を、先行研究として取り上げた。また、現象学の舞踊論への転用を行なったマクシーン・シーツの「舞踊の現象学」とマクシーン・シーツが展開する理論の根幹に影響を与えているスザンヌ・ランガーの舞踊論と美学論について整理し、後の即興性に関する考察を行うための基礎理論として位置付け、これらの理論を援用し即興舞踊時と非-

即興舞踊時との比較、分析を通して「舞踊する身体が常に抱える即興性」について考察を行うものとする。

#### 【結果と考察】

ランガーは、「舞踊家は何を創作するのか」という問いに「舞踊家はダイナミックなイメージ（動的線性）を創造する」と答えているように、現実のものを抽象し、虚のものへと変形させる理論を構築することで舞踊を舞踊たらしめる根源に迫っていった。そして幻影（イリュージョン）として現れてくる舞踊の「虚の力」を生み出す重要な概念として「虚の身振り」を掲げた。

ランガーの「虚の理論」を即興舞踊に転用し、「即興舞踊において舞踊家は何を創作するのか」という問いを立てることで、以下のことが明らかとなった。

ダンサーが非-即興舞踊において現実の「動き(movement)」を「虚の身振り(gesture)」へと変換する行為は、リハーサルの過程で、ダンサー個人の経験や技術、思考などが作品と相互に影響を及ぼすことでなされるものであり、それは、即ち反省的レベルで行われているものであると言える。一方で、即興舞踊では、「虚の身振り」は振付けとしてあらかじめ準備されているのではなく、ダンサーは、踊ることとともに「動き(movement)」を「虚の身振り(gesture)」へと変換していることが明らかとなった。

また、踊ることとともに「動き(movement)」が「虚の身振り(gesture)」へと変換される過程は即興舞踊のみにおいて現れるわけでない。つまり非-即興舞踊として振付家から「虚の感情」を受け取り、「虚の身振り」が生成されていても、すなわち振付けが用意されている場合においても、ダンサーは、生成された「虚の身振り」を形式的になぞるわけではなく、踊ることで振付けに内在する「虚の感情」を反芻することで、前-反省的レベルで「虚の身振り」を再生成していることが示唆された。それは言い換えれば、非-即興舞踊においても身体は即興性を帯びているということである。

#### 【引用参考文献】

- ・ J. P. サルトル (1956) 「存在と無-現象学的存在論の試み-」 訳：松浪信三郎。人文書院。
- ・ M. シーツ・ジョンストン (1981) 「動きという形の思考」。訳：瀧一郎，美学 36(1)：339-407。
- ・ S. K. ランガー (1967) 「芸術とは何か」。訳：池上保太，矢野萬里。岩波書店。
- ・ メルロ＝ポンティ (1967) 「知覚の現象学」。役：竹内芳郎，小木貞孝。みすず書房。